

# 干しいも用品種「ほしキラリ」の栽培法改善による増収技術

みんなで進めよう  
茨城農業改革

農業総合センター農業研究所

平成 23 年度に準奨励品種に採用された新しい干しいも用品種「ほしキラリ」は、干しいも製品の色と食味は優れるものの、収量が主力品種である「タマユタカ」に比べ 2~4 割劣ります。そこで、栽培法改善による「ほしキラリ」の増収技術を確立しました。

## 「ほしキラリ」の増収技術

「ほしキラリ」増収技術のポイントは、次に挙げる 3 つです。①黒マルチ栽培とする、②慣行より株間を 10cm 広げる、③栽培日数を 170 日程度まで長くする。以上、3 つのポイントを組み合わせることにより、干しいもの品質を低下させることなく、「タマユタカ」と同等の上いも収量が得られます。

表1 「ほしキラリ」栽培法の違いが収量および干しいも品質に及ぼす影響（農研：水戸市）

品種名	栽培様式	栽培法		上いも		サイズ別収量		干しいも		
		黒マルチ	株間 (cm)	栽培日数 (日)	収量 (kg/10a)	対慣行 比 (%)	200g~ 対慣行 比 (%)	シロタの発生程度	食味	
ほしキラリ	増収栽培法	有	35	約170	3,091	<b>139</b>	1,864	<b>268</b>	無	上
	慣行栽培法 (タマユタカと同じ栽培法)	無	25	約145	2,228	100	696	100	微	上
参考) タマユタカ	慣行栽培法	無	25	約145	3,150	141	2,070	297	中	やや上

注) 数字は、所内H22、23の試験結果平均値(ほしキラリの増収・慣行栽培法の干しいも評価はH23)  
上いもは、50g/個以上のいも  
シロタの発生程度は無~多の7段階評価、食味は上~下の5段階評価  
耕種概要

- 1) 施肥量(kg/10a) : N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=1-12-10
- 2) 畦間 : 100cm
- 3) 挿苗 : 5月下旬、収穫 : 10月中旬(栽培日数約145日)、11月中旬(栽培日数約170日)



図 1 栽培法の違いによる塊根肥大の違い（左：増収栽培法、右：慣行栽培法）

## 成果の留意点

- ・低温に遭うといもが腐りやすくなるので、霜にはあてないようにします。